

# 人の行動と心理の科学

(Psychology and Behavioral Sciences)

## 【責任者/担当者】

〔心理学〕室井 みや 教授

## 【目的】

心理学を学ぶことで、偏見や思い込みにとらわれず、人の心、行動をより適切に理解することを目指す。また、心に関わる様々な疾患と治療の方法への理解を深める。この授業を通して、人への理解を深め、医療における心理学の利用について考える。

## 【科目キーワード】

「知覚(perception)」「記憶(memory)」「性格(personality)」「知能(intelligence)」「学習(learning)」「感情(emotion)」「動機づけ(motivation)」「ストレス(stress)」「発達(development)」「印象形成(impression formation)」「コミュニケーション(communication)」「患者の心理(patient's psychology)」

## 【到達目標(アウトカム)】

- 心理学とは何か説明できる。
- 心理学の基本的な概念について説明できる。
- 心に関する障害、疾患について説明できる。
- 基本的な心理療法について説明できる。
- 基本的な心理検査について説明できる。
- 医療における心理学の役割について説明できる。
- 患者と家族の心理学的特徴について説明できる。

## 【ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連】

- ・安心・安全な医療に強い使命感と自律性を有し、優れた協調精神を持ってチーム医療の一員として社会の福祉に奉仕できる良医となるべき素養を有している。
- ・人文社会科学を含む幅の広い教養と国際性を身につけ、海外からの情報を積極的に利用できる語学力を有し、国際保健に貢献できる。
- ・人体や疾病に影響を与える社会的な要因や背景について理解し、支援扶助の社会的仕組みについて理解している。
- ・豊かな人間性と生命の尊厳についての深い認識を有し、人の命と健康を守り、社会の福祉に奉仕する医師としての職責を自覚し、地域並びに母校への帰属意識を有している。
- ・患者およびその家族の人権を守り、医師の義務や医療倫理を遵守するとともに、患者の安全を最優先し、患者の権利と生命の尊厳を守ることができる。

- ・人間の多様性を理解し、周囲の人々への温かい眼差しを持ち、共感できる豊かなコミュニケーション能力を有している。
- ・患者の痛み、苦しみ、悩みと機能障害を含め様々なハンディキャップを理解し、常に患者中心の立場に立つことができる。
- ・医学・医療の進歩と改善に資するために研究を遂行する意欲と生涯にわたり自己研鑽を続ける態度を有し、同僚・後輩への教育に労を惜しまない。
- ・患者の持つ様々な問題点を科学的かつ統合的に捉え、的確に判断し解決できる応用力と問題解決能力を有している。
- ・基本的な診察法、医療技術、救命救急法を修得しており、全身を総合的に診療するための実践的能力、ならびに医療安全と危機管理の能力を有している。

### 【概要ならびに履修方法】

テーマごとに講義を行う。資料はパワーポイントで提示するが、各自、自分の言葉でわかるようにメモを取り、講義終了後、できるだけ早く復習しておくこと。

### 【準備学修ならびにそれに要する時間】

準備学習は必要ではないが、講義終了後の復習に 30 分程度必要である。

### 【成績の評価方法・基準】

7月22日(金)2時限に中間試験、10月11日(火)に定期試験を実施する。中間試験は、5～7月期の内容、定期試験は、8～10月期の内容を対象とする。成績は、試験結果95%、出席状況、授業内の提出物の内容5%により評価し、その成績が65点に満たない場合は、11月9日(水)の再試験の対象となる。

### 【学生への助言】

授業期間が5～10月と長期にわたるため、内容を忘れないように、毎回、授業終了後に、早めに復習しておくこと。欠席等で、講義を聞けなかった場合、参考図書を読んで、各自学習すること。

### 【フィードバック方針】

試験についての解説講義を行う。

### 【オフィスアワー】

月～金曜日:11:40～12:40

### 【受講のルール、注意事項、その他】

特になし

### 【教科書】

特になし

**【参考書】**

「ヒルガードの心理学(第16版)」スーザン・ノーレン・ホークセマ、他 編著 内田一成 監訳  
(金剛出版)2015年

**【連絡先】**

教育研究棟 5階 心理学 教員室